



編集・発行 山見妙勢能  
山見妙勢能報部  
〒563-0132  
大阪府豊能郡野間中  
電話 072-739-0329  
FAX 072-739-2883

### 耳を傾ければ

倉橋 観隆

私は会話をしているときよく相手と同時に言葉を発する時があります。俗に「かぶり合う」とでもいうのでしょうか。

先日、ある会話術の本を読んでいるとこの件について書かれていました。

「それは癖で相手の話を聞いていふりをしていふ実は最後まで聞いていない証拠。話の途中から次に自分は何を言おうかと考えているせつかな人に多い」との指摘。「これはまさに自分の話だ」と反省させられました。

そんな時ふと思ひ浮かんだのが七福神のお姿です。

恵比寿・大黒天・毘沙門天 弁財天・布袋・福祿寿・寿老人。七神七様の全く異なるお姿ですが一つ共通点があることに気がきました。それは皆様耳がとて大きくいということ。これは耳を大きくして人の話をよく聞け、という戒めが込められているのではないかとするならそれこそが福の神を招く第一条件となるのでは、と思つた次第です。

さらに「聞く」というと思ひ浮かぶ方が聖徳太子です。太子は同時に十人の話を聞き分けたといふことは有名ですが、同時にいふのは実は皆の話によく耳を傾けられたといふことではないでしょうか。太子が制定されたという『十七条憲法』の第十七条には物事を独断で決めてはいけぬ。必ず皆で論議して判断せよと説かれています。つまり周りの意見にもよく耳を傾けよ、ということだったので「聞く」というテーマでお話を進めて来ましたがここでクイズを一問。

あなたが生まれて一番最初に聞いたのは誰の声でしょうか。お母さん？それとも…？答えはあなた自身の声のはずです。そして生涯一番多く聞くのも自分の声ではないですか。ならば「聞く」の根本はまず自分が発する言葉に自分が耳を傾けるべきかと思ひます。その時、恐らく何かの気付きが与えられることでしょう。最後に日蓮様のお言葉に耳を傾けて下さい。「災いは口より出て身を破る。幸いは心より出て我を飾る」

### 《法華經に学ぶ現代》

〜純智庵〜

我れ

當に

佛法を

以て

之を

訓導

すべし

『隨喜功德本第十八』

この世に浄土を築くべし

### 【5月の主な行事】

★写経会 13日(日)11時

☆妙見大菩薩年大祭 15日(火)

11時 特別加持

11時50分法話(西村花蓮師)

13時 星嶺にて祈願法要

※特別加持祈禱ご希望の方は事務所にて受け付け中です。

★星嶺演奏会 20日(日)11時

フルートの生演奏

★星嶺茶論 20日(日)13時

大鼓教室です。初心者歓迎。

★鷗様月例祭 22日(火)15時

※火伏守札を授与

### 【6月の行事予定】

★写経会 10日(日)11時

★月例祈願法要 15日(金)13時

★星嶺演奏会 17日(日)11時

トランペットの生演奏

★星嶺茶論 17日(日)13時

大鼓教室です。初心者歓迎。

★鷗様月例祭 22日(金)15時

※火伏守札を授与

### 《交通のご案内》

◆ケーブル&リフト毎日運行中

### 心のしこり

相川 大輔

先日、中学生だったころのエピソードが、ふとした瞬間に心のなかに浮かび上がってきた。その内容は特別な思い出と呼べるような出来事ではない。それは中学三年生のある日、一人の先生が好意で私にかけてくれた言葉に対して、照れ隠しで先生の困惑するような言葉返してしまったというものである。

私は思わず恥ずかしい気持ちでいっぱいになりながら「先生、ごめんな。あの時は照れ隠しであんな事を言ってしまったけど、本当はうれしかったんだよ」と心のなかでつぶやいた。そうすると、波打つ心は静まりとても穏やかで暖かな感覚が胸を通り過ぎるのを感じた。

「過去の経験や感情が、何かを契機として、私たちが認識できる意識下まで顔を出すために起こるものである。そしておそらく、このような形で私たちの前に現れるエピソードは、初恋の甘酸っぱいエピソードを除けば、大抵は、これまでの人生のなかで失敗したり後悔したりしたものではないか。言わば、それは「心のしこり」とも呼べるものだろう。」

実は、私たちは、日常生活を送るなかで、そういった心のしこりを奥底に日々ため込みながら生きていく。そしてこの量が多くなると、元気がなくなったり病気になる。このような状況を解消するには、心のしこりをほぐして取り去っていく必要がある。その方法が、私が中学校の先生に対して行なった「懺悔（さんげ）」である。

スプーン作りにはまっている。生木を斧とナイフで削りだすグリーンウッドワークという手法で作る。スプーンなどよく目にするものだが、いざ作るとなると角度や深さなど意外と覚えていないものだ。また、木を削って作るのには思いの外大変なのだが、基

### ☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

本のコツを教えてもらうことで、少しは思ったように作れるようになった。何事も基礎が大事なのだ。改めて感じる。さて、私達の人生において、コツがあればもっと自由になれるのかもしれない。きっとそれが仏教なのではないだろうか。U.K

### 俳壇

（みのり）

牧草の波にたわむる雀の子  
万緑の山真二つに高速道  
師を囲みクローバーの庭座談会  
意に添わず姉妹げんか余花の雨  
晴れ渡る空の青さよ愛鳥の日

### 法華経茶話

#### 法華経の成立(一)

日蓮宗が根本聖典としている法華経は実は入滅後五百年以上経ってから編纂されたお経といわれます。とすると、法華経はお釈迦様とは無関係に成立したお経なのでしょうか。でもおかしいですね。お釈迦様と無関係に成立しているのに仏教といえるのか？それを説明するには法華経がどのような経緯で編纂されたのかを知る必要があります。

お釈迦様は男女・出家在家を問わず、全ての人々が仏弟子であるとすると平等思想をお説きになりましたが、次第に教団の中で男性出家者中心主義が主流となりました。この頃の仏教を部派仏教といい、のちに小乗仏教と呼ばれました。男性出家者は僧院に籠ってひたすら禁欲生活をし自己の修行の完成のみを目指したため、独善的・利己的なきらいがあったといわれました。